

次の文章を読み、あなたの考えたことを六〇〇字程度で述べなさい。

無愛想で悩んでいる人がいます。いつも笑顔でいられれば、自分も周りも幸せに違いありません。笑顔には、人の心を癒やす力があるからです。けれど、笑顔でいられないときや笑顔をつくるのが苦手な人もいます。

僕も、意識して自分で笑顔をつくることはできません。

笑顔は「あなたのことを嫌いじゃないよ」という、一つのアピールだと思います。他の人の前で笑顔がつかれない人は、このアピールが下手なのでしょう。誰かと一緒にいることが、あまり得意ではないのかもしれないかもしれません。

僕もそうです。一人でいるときのほうが気楽で、誰かと一緒にいるときは落ち着かず、人の顔色をうかがったり、迷惑をかけていないか気になったりします。

だからといって、人が嫌いなわけではないのです。他の人と過ごす時間も楽しいと感じています。

笑顔は、誰もがしてくれるもののように思われていますが、実はとても難しい表情なのかもしれません。

心から楽しいと思ったり、おもしろいと感じたりすると、自然と笑みがこぼれます。でも、さあ笑わなくちゃと思ったとたん「笑顔って、どんな顔だっけ？」ととまどう人は、少なくないでしょう。

何を考えているのかわからないと、僕はよく言われていました。それなら笑顔でいようと努力したこともあります。目を細めて、ニツと口角を上げてとイメージしてやってみますが、何だかしらじらしい。おまけにその表情を維持し続けるのがまた大変です。これは自分の顔じゃない、そんな気がして、すぐに無愛想な顔に戻ってしまいます。

でき上がった写真を見ても、無理に笑っている顔は、全然楽しそうではありません。いつもの顔のほうが、よほど自分らしいのです。

自然な表情が一番いい。笑顔をつくれなくても「まあ、いいか」と僕は思えるようになりました。笑顔をうまくつけれないことを、深刻には悩まなくなったのです。

笑顔の素敵な人の周りには、人がたくさん集まっています。いいな、うらやましいなと思っても自分にはできない。どうしたものかと落ち込みますが、社交的ではない性格は変えようがありません。

それでも、僕と一緒にいてくれる人は、たまに僕が笑顔を見せると、宝くじに当たったかのように喜んでくれます。いつも笑顔でいる人は、笑顔でなければ心配されるのに、ちよつと笑顔を見せただけで人に喜んでもらえるなんて、僕は得をしているなあと感じます。

僕は、自分が愛想なしだと自覚しているので、愛想のない人を見ても、笑顔が足りないとは思いません。人の魅力は、笑顔だけではないと知っています。態度、そして言葉遣いの他にも、仕草やさりげないやさしさ、そばにいるときの居心地のよさなど、口ではうまく説明できない互いの相性や存在感も、お気に入り度を決める重要な要素です。

結局は、その人の個性なのでしょう。自分らしくいることで損をすることもありますが、得をしていることもあるような気がします。

もし、飲み会やパーティーなどで、ひとりぼっちになったとしたら、心の中の自分と会話してみてください。思ったことや考えたことを自分に語るのです。感じたことを言葉にすれば、自分の気持ちを整理できます。

僕の「まあ、いいか」は、自分を慰めるための最適な言葉なのです。